

2007年6月8日

報道関係各位

エクソンモービル有限会社
広報渉外部

エクソンモービル音楽賞洋楽部門 新選考委員決定のお知らせ

エクソンモービル・ジャパングループの社会貢献活動の一つであるエクソンモービル音楽賞洋楽部門は、2007年度より新たな委員の方々に受賞者を選考していただくことになりましたので以下の通りお知らせいたします。

エクソンモービル音楽賞洋楽部門 新選考委員

関根 礼子(せきね れいこ)先生 (音楽評論家)

中村 孝義(なかむら たかよし)先生 (大阪音楽大学学長)

諸石 幸生(もろいし さちお)先生 (音楽評論家)

また、1988年より約20年にわたり選考委員を務められた三善清達先生、小石忠男先生、富永壮彦先生には、2007年度エクソンモービル音楽賞洋楽部門選考相談役として、本年度の受賞者の選考を引き続きサポートしていただきます。

なお、2007年度の受賞者は、エクソンモービル児童文化賞、音楽賞邦楽部門と併せて本年7月に発表する予定です。

以上

添付資料1: 新選考委員プロフィール

添付資料2: エクソンモービル音楽賞について

この件に関するお問合せ先:

エクソンモービル有限会社 広報渉外部 コミュニティリレーションズ
担当: 室井(TEL:03-6713-4382/E-mail:tomoko.muroi@exxonmobil.com)

エクソンモービル音楽賞洋楽部門 新選考委員プロフィール

関根 礼子 先生

(音楽評論家)

1947年生。国立音楽大学楽理学科卒。音楽旬報社勤務を経て、1981年よりフリーにて音楽評論活動。現在、昭和音楽大学オペラ研究所嘱託研究員、日本オペラ団体連盟発行「日本のオペラ年鑑」編纂委員長、三菱信託芸術文化財団評議員、東京オペラシティ文化財団理事、ニッセイ文化振興財団理事ほか。著書に「オペラの世界」など。

中村 孝義 先生

(大阪音楽大学学長)

1948年生。関西学院大学大学院文学研究科博士課程修了。ヴェルツブルク大学音楽学研究所客員研究員、大阪音楽大学教授、同大学ザ・カレッジ・オペラハウス館長、大学院研究科長を経て現在学長。(財)びわ湖ホール評議員、川西市文化財団理事、文化庁芸術祭企画委員、同審査委員などを歴任。著書に「室内楽の歴史」など。

諸石 幸生 先生

(音楽評論家)

1948年生。早稲田大学法学部卒。(財)音楽鑑賞教育振興会において鑑賞指導法の研究を行うとともに、20世紀の演奏家を網羅した「演奏家大事典」の編集・刊行を行う。その後、音楽評論活動を始め、雑誌、新聞への執筆、および放送番組解説などを行う。著書に「トスカニーニ、その生涯と芸術」「クラシック新鮮組」など。

エクソンモバイル音楽賞について

概要

エクソンモバイル音楽賞は、日本の音楽文化の発展・向上に大きく貢献した個人または団体をたたえる目的で創設されました。毎年1個人または1団体が受賞者として選ばれ、本賞トロフィーと副賞賞金200万円が贈呈されます。1971年に創設された音楽賞は、今年で37回を数える歴史ある賞に発展しました。また洋楽部門では、日本を代表する優れた若手音楽家を励ますため、1989年より奨励賞が設けられています。邦楽部門においては、これまで18人の受賞者が受賞後に重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定されています。邦楽部門・洋楽部門を併せ持ち、単年度内の功績よりそれまでの実績全体に視点をおいた功労賞的な趣旨を持つ点がこの賞の特色です。



第1回エクソンモバイル音楽賞（当時「モバイル音楽賞」）贈呈式。
邦楽部門の受賞者は琴古流尺八の山口五郎氏、
洋楽部門受賞者はヴァイオリンの江藤俊哉氏。

選考方法（一部予定）

- 4月 音楽界をはじめとする各界の有識者に受賞候補者の推薦を依頼。
- 6月 推薦結果を参考にして選考委員および選考相談役（洋楽部門）による選考委員会を開催し受賞者を決定。
- 7月 受賞者発表。
- 10～11月 贈呈式開催（エクソンモバイル児童文化賞と同時開催）。

選考委員（敬称略、順不同）

《邦楽部門》

- 塚田 博 浜松市音楽文化名誉顧問
- 榎本 由喜雄 社団法人能楽協会顧問、財団法人沖永文化振興財団理事
- 徳丸 吉彦 放送大学客員教授、お茶の水女子大学名誉教授

《洋楽部門》

- 関根 礼子 音楽評論家
- 中村 孝義 大阪音楽大学学長
- 諸石 幸生 音楽評論家

《洋楽部門 2007年度選考相談役》

- 三善 清達 東京音楽大学名誉教授
- 小石 忠男 音楽評論家
- 富永 壮彦 音楽評論家